

産後うつを予防し、母親としての役割を促進するプログラムの構築

看護

木村 奈緒美 Naomi Kimura

母性看護学／講師

■キーワード 産後うつ、児童虐待予防、心理的介入

シーズ概要

産後うつ等の周産期の精神的健康問題で起こる妊婦や母親の自死、子どもへの虐待は切迫した社会問題である。母親が精神的健康を良好に保つことは、子どもの成長・発育にも切実な問題である。この問題に対して、育児期の母親に対して心理的介入を行い、精神的健康を維持する介入方法を研究している。

研究成果の応用可能性

母親の個人の資質に働きかける介入方法を研究しているため、周産期全体を通した母親の精神的健康の維持向上だけでなく母親としての役割向上も含め支援することができると考えている。また、精神疾患を持った妊産婦にも応用が可能であると考えている。

Appeal Point

アピールポイント

周産期から育児期を網羅した支援方法を確立していきたいと思います。